

朝日大学病院で早期胃癌・胃腺腫に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD: Endoscopic Submucosal Dissection）術前評価目的に内視鏡検査を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

早期胃癌及び胃腺腫の内視鏡診断における画像強調内視鏡の優劣性についての 研究の調査へのご協力をお願い

今回、朝日大学病院は、早期胃癌及び胃腺腫の内視鏡的診断における画像強調内視鏡の優劣性についての研究を実施いたします。そのため、過去に朝日大学病院で早期胃癌及び胃腺腫に対してESD術前評価目的に内視鏡検査を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

胃癌はヘリコバクターピロリ除菌や上部消化管内視鏡検査により早期発見・早期治療が可能となり、胃癌死亡率は徐々に減少しています。この度、富士フイルム株式会社より新しい画像強調内視鏡システム(BLI,LCI)が市販され、その画質の向上によりこれまでの白色光よりも視認性の向上が報告されていますが、どの画像強調内視鏡画像が腫瘍の発見に最も適しているかは明らかではありません。

今回、適切な画像強調内視鏡検査の選択や診断法を明らかにすることを目的としました。

研究の方法

・対象となる患者様について

2014年7月1日から2018年3月31日の期間で、当院で早期胃癌に対してESDまたはEMRを施行された方のうち、ESD前観察を通常光、LCI、BLI-brt、ICの4つのモードで観察されていた患者様が対象となります。

・方法について

早期胃癌・胃腺腫に対してESD術前に内視鏡観察を行った方で、通常白色光およびLCI、BLI-brt、インジゴカルミン(IC)それぞれの画像強調内視鏡における早期胃癌もしくは胃腺腫の視認性の優劣性について検証します。

解析の結果、視認性の違いが明らかになった場合、今後の治療に活用されます。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、平成30年8月31日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

本研究は、朝日大学病院医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先・研究責任者

朝日大学病院 消化器内科

職・氏名 教授 八木 信明 電話：058-253-8001